

自治連よなご

第61号

令和4年(2022年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会
(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

特集!!

備える防災の取組について

米子市において昨年7月の大雨により一部地域に警戒レベル3（高齢者等避難）の発令がありました。自然災害は時として想像を超える力で襲ってきます。日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることができます。自分自身の安全を守るため、今知っておきたい「自助」「共助」を紹介します。

自然災害と『正常性バイアス(偏見)』

BSS山陰放送専属 防災アドバイザー 近藤 豊

今年も初詣はなさいましたか？お正月に多くの方々が初詣をして今年1年間の願いをされています「お金が儲かります様に」「希望の高校や大学に合格します様に」などなど、その願いの中に「家内安全」を願う方も少なくないと思います。

誰もが身に起こる災いから逃れたいと願っています。そして「防災」とは災害から身を守ること。「減災」とは身に起こる災いを小さく（少なく）すること、みなさん意味や意義は分かっているのに、いざその場面に遭うと行動を躊躇しています。私が気象庁在職中にもこの様な場面に出合い「被災される方」をみてきました。防災、減災の行動に妨げとなる人間の本能があります。皆さんは「正常性のバイアス(偏見)」という言葉が聞かれたことがありませんか？自分の身の回りに異常なことが起こっても「たいしたことはない、正常の範囲（いつものこと）だ」と捉え、心の平静を保とうとする働きのことです。これは人間が生活していく上で身の回りできまざまなことが起こりますが、その事柄の一つひとつに心が過剰に反応すると疲れてしまうため、それを防ぐために人間に備わった機能（本能）とも言えます。

しかし、この働きが過ぎてしまうとどうなるのでしょうか？特に自然災害が目の前に迫っているとき「ここは、今まで水害に遭ったことはないから、大丈夫！」「避難指示が出ているけど、どうせ空振りに終わるんじゃないか」「ハザードマップじゃ、ここは土砂災害危険区域だけど、昨年大雨でもそんなことは起きなかった」等々です。

九州から北海道まで大きな被害をもたらした「平成30年（2018年）7月豪雨」も記憶に新しいところです。岡山県の高梁川とそこに流れ込む小田川に囲まれた倉敷市真備町一帯が水に浸かり、真備町だけでも50人の方が亡くなりました。『バックウォーター現象』という言葉も、その時初めて聞いた方も多いことでしょう。本流である高梁川の増水で合流する小田川の流れがせき止められ、堤防からの越水により堤防の外側が削られ決壊したとみられています。この地域は以前にもたびたび洪水被害がありましたが、近年では昭和51年（1976年）の台風17号による洪水が発生しています。それから40年以上が経過し、住民の多くは、その災害後に引っ越してきた人々だったといえます。土地の古老は水害被害のリスクを知っていましたが、床上浸水の経験はなかったそうです。倉敷市のハザードマップに示された浸水域は、この豪雨で浸水した地域とほぼ重なっていました。ハザードマップもまだまだ普及してない中であって、住民の方々は「まさか、こんなことが起こるなんて思わなかった」ということなのでしょう。まさに正常性バイアスが働いたと言えるでしょう。河川の形状や地形、過去の被災の記憶など米子市内でもとても似た地域がある様に思いますが、いかがでしょうか。

現在の日本は地球温暖化による影響も受けて、これまで経験したことのない自然災害がいつどこで起こり、また起こっても不思議ではない状態なのです。大きく構える必要はありません。まずはハザードマップで自分の住んでいる場所の洪水や土砂災害のリスクを知っておくことはできます。そして、過去に経験したことがないほどの大量の雨が降ると予報された時、あるいは避難指示が出された時にどうすればよいか（時間帯にもよりますが、どこへ逃げるか）考えておくことくらいはできます。そういった平時の備えが身を守り、周囲の人の生命も助けることができるのです。自然災害時にはぜひ「正常性バイアス」を取り除いてください。



特集1 家庭での備え

非常用持ち出しバッグの準備はできていますか？



被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべき物をあらかじめリュックサックに詰めて、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。

非常用持ち出し袋

避難の際に持ち出すもの！

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 水 | <input type="checkbox"/> 軍手 |
| <input type="checkbox"/> 食品
<small>(ご飯(アルファ米など)、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど：最低3日分の用意！)</small> | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット・防災ずきん | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉 |
| <input type="checkbox"/> 衣類・下着 | <input type="checkbox"/> タオル |
| <input type="checkbox"/> レインウェア | <input type="checkbox"/> ペン・ノート |
| <input type="checkbox"/> 紐なしのズック靴 | 感染症対策にも有効です!! |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <small>(※手動充電式が便利)</small> | <input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <small>(※手動充電式が便利)</small> | <input type="checkbox"/> 手指消毒用アルコール |
| <input type="checkbox"/> 予備電池・携帯充電器 | <input type="checkbox"/> 石けん・ハンドソープ |
| <input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 救急用品
<small>(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)</small> | <input type="checkbox"/> 体温計 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | 一緒に持ち出そう!! |
| <input type="checkbox"/> ブランケット | <input type="checkbox"/> 貴重品
<small>(通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど)</small> |



災害に備えて ～家庭でできること～



☆ 避難場所や避難経路を確認しましょう

- 災害が起きた時に、落ち着いて避難できるようハザードマップを入手し、避難場所や避難経路を事前に確認しておきましょう!
- 地震時は、自宅から避難所までの道のりは、普段と違い通行できない場合もあることを知っておきましょう。
- 実際に歩いてみるなど危険箇所を把握し安全なルートを確認しておきましょう。

☆ 顔の見える関係を作りましょう

- 平常時にご近所同士や身近な地域でさまざまな組織が顔の見える関係を築いていることが重要です。
- いざというとき、人は互いに助け合わなければ生きられません。
- 日頃からあいさつを行うなど、コミュニケーションの機会を作っていきましょう。



ASSIST SECURITY SYSTEM'S

アシスト警備保障有限公司

〒683-0012 鳥取県米子市八幡 573-4
TEL 0859-26-5511 FAX 0859-26-5519

お家に眠っているお洋服 ☆*:.:(*):.**.*.☆*.
:*.*♥:*.*♡*.*もう一度身に着けてみませんか?
リメイク・リフォームご相談承ります ☆*.*.*.*.
☆*.*:(*):.**.*.couture(クチュール) *.*.☆*.*.*.*.

米子市四日市町79 0859 31 5301

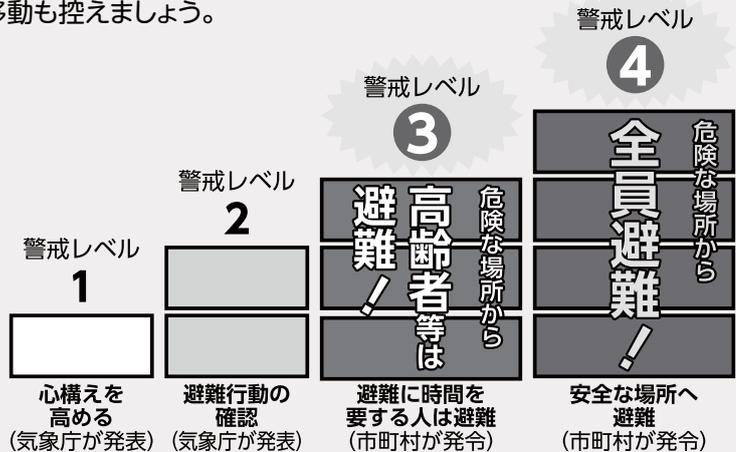
『避難指示』で必ず避難しましょう!



☆ 避難勧告は廃止になりました。これからは警戒レベル4避難指示で避難してください。

- 避難とは、難を避けること!! 安全を確保することです。安全な場所へ移動しましょう。
- 危険な場所から警戒レベル3で「高齢者等は避難」、警戒レベル4で「全員避難」です。
- 豪雨時の屋外避難は大変危険です。車の移動も控えましょう。

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保※1
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~	
4	避難指示※2
3	高齢者等避難※3
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)



※1 市町村が災害情報を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5には必ず発令されるわけではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者以外の方も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

## 特集2 地域による助け合い ～取組に参加しましょう～

### 米子市東町防災活動

就將地区 東町自治会 会長 倉敷 卓

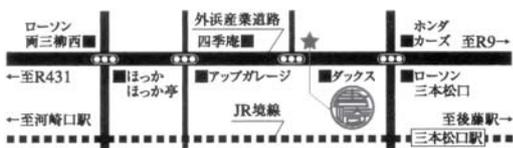
平成26年より防災福祉部として『安心・安全で住みよいまちづくり』を目的に防災避難訓練に取り組んでいる。平成22年に自主防災部を設置し、市の助成補助により、防災倉庫、車椅子、リヤカー等準備がなされ平成24年には、東町独自に世帯調査(世帯状況・災害時援護希望有無)が会員協力のもと行われた。この調査は後の平成25年米子市長寿社会課の「避難支援プラン」の聞き取り作業を円滑に進めることとなり、『災害時要支援者リスト』が市と共有管理され、災害時での初期対応や、平常時の見守り活動に活用、さらに「防災支え愛マップ」の作成は民生児童委員、在宅福祉員の連携活動にも生かされている。平成26年より防災訓練を米子市秋の一斉清掃に合わせて定例実施することにした。訓練の基本的な考えとして、行政の本格的な災害が始まるまでの初動を『互助』地域の相互助け合いの視点で取組み、まずは「自分自身・家族の安全確保と避難」次に「隣り近所の安全確保と避難」そして「近くの要援護者の安全確保と避難援助」の考えで取り組んでいる。

具体的な活動として

1. 啓発活動として、『防災通信』紙の発行を年2～3回

発信する。現在18号配信

2. 避難訓練の実施は避難開始呼びかけで始まりふたつの班には車椅子に人力補助器具を取り付け要援護者に見立てて東町公園まで搬送体験する。次に水消火器訓練。例年ですと炊出し班はアルファ米で炊き込みご飯の配食をしますが、今年は個別に保存食配布とした。
3. 研修会の開催。例えば「在宅医療と介護」についての講演や「災害に役立つ日頃の準備」「人工呼吸・AED」の取り扱いや実地講習等の開催をする。今年度は東町独自開催から広く地域防災意識を高めてはとの就將地区自治連合会長の声掛けにより地区自治連・社福・公民館3団体による防災学習会の開催となる。「水害から身を守るために」と題して市防災安全課の講演を願う。さらに、公民館祭では、地震体験車や防災避難簡易ベッド・グッズの展示は公民館祭の大注目と成りました。避難訓練にあたっては継続実施していくことが大切です。まずは肩の力を抜いて楽しい訓練…「ちょっと楽しい?」かもしれないが、出来ることから始めたらどうでしょうか。



<http://www.karasaki-shouten.com>



社会福祉法人

もみの木福祉会

法人本部: 〒683-0103 米子市富益町 4660 番地  
TEL (0859) 28-8470 FAX (0859) 28-8899  
<https://www.mominokifukushikai.jp/>

〔事業所/提供サービス〕

- もみの木園(生活介護・入所支援・短期入所)
- もみの木作業所(就労継続B型)
- 和おん(相談支援(障がい児者))
- 支援センターのぞみ(生活介護・居宅介護・行動援護・日中一時)
- グループホーム(日中サービス支援型・介護サービス包括型・短期入所)

## 自治組織の防災意識を高めるために

宇田川地区 中西尾自治会 生田 勝彦

令和3年2月末、宇田川地区中西尾自治会において初めての防災訓練（避難訓練）について「支え愛マップ」のしくみを取り入れて実施しました。きっかけとなったのは、近年、全国各地で発生している災害については、「まさか、私達の地域で！想定外であった！」この言葉の多いことが起因しました。

基本的に私自身災害時の初期対応は自治組織で行うべきと考えるため、自治会役員会において背景を説明し、「避難訓練」の提案を行いました。議論においては役員全員が前向きに捉えてもらい、結論としては定例行事において「災害時を想定した避難訓練」を実施することとなりました。この時期はコロナ禍であると共に自治会行事として企画していなかったのが苦勞も多かったです。

令和3年度については11月に第2回目の避難訓練を実施しました。（災害時の想定を更に具現化するために炊出し訓練についても同時に実施）

また、当日は社会福祉協議会、米子市防災安全課から来賓を招き、訓練内容を見学して頂きました。（※終了後、

米子市防災安全課の担当者から「防災に関するプレゼン」実施）

但し、防災訓練を実施するにあたって事前準備が大切となります。今回は役員会を数回開催し、自治会内への情報発信（資料配布と臨時総会）、班長会議の開催と「支え愛マップ」の作成について効率的に実行するための工程表をつくったことで、なんとか計画的に実行することができました。

基本的に役員全員の集結と班長の支援があったからですが、自治組織の大きな成果は「命は住民同士で守る」機会を共有できたことが一番と考えます。この避難訓練は前述したようにコロナ禍での開催でありましたが、60%の参加率を得ることができました。最後に、田舎の自治会においても多様化が進み、行事等の開催が難しい状況にあると考えます。中西尾自治会においては「助け合いの気持ち」を大切にしつつ、今後も自治組織のあり方と住民同士のコミュニティの場の提供（防災訓練含）を積極的に推進したいと考えています。



## 「防災連合会」組織を結成して

富益地区自治連合会 会長 永見 修司

近年全国各地で、記録的な大雨による河川の氾濫、土石流などによる道路・家屋などの損壊、また台風、地震など自然災害が多く発生しています。富益地区においては、地域防災力の向上を図るため、全自治会が地域防災組織を結成していますが、自治会規模の大小により、個々の防災活動にかなりの温度差があります。

近年各地で発生している災害は大規模であり、今後は広域な地域防災の取り組みや「実践的な地域防災力の向上」が重要です。ところが、個々の自主防災組織は、十分な活動ができない、必要な資機材が整備できない、組織を維持出来ないなどの課題があり、これらを打開するため、昨年11月に自治連合会が中心になり防災連合組織を結成しました。

連合組織のメリットとしては

- ・連携により実効性の向上を図る
- ・防災資機材の高度化・合理化

などがあります。また市からの補助金制度もかなり優遇されています。

富益地区では、令和2年度は新型コロナ感染により十分な防災活動などができず、自治連合会が住民の防災意識を高めるため、小冊子「地域で考える災害の備え」を全戸配布して、防災対応への周知を図りました。

自然災害はいつどこで発生するか分かりません、今後は住民が防災意識を高め、被害を少しでも軽減するため、お互いが連携協力し助け合う共助の輪を広げ、安心安全な地域づくりを目指して防災活動を実践していこうと思います。



令和3年度 秋の叙勲 旭日単光章受賞 福米西地区 新開東一区自治会 会長 前田 一三氏

## 編集後記

昨年7月には米子に線状降水帯が襲って来ましたが、これからは気候変動で今までにない、いろいろな災害が発生してもおかしくない時代に入っています。防災に取り組みにあたっては、その基本概念である自助・共助・公助をあらかじめ把握しておく必要があるでしょう。

【自助】 自身や家族の安全を確保するために対応すること  
【共助】 自分のいる地域や近隣の方と協力して対応すること  
【公助】 自治体や消防、警察などの行政が行う人命救助などの対応のこと

上記の中で最も重要とされるのは自助であり、災害発生時に自分の身を守ることでなければ他者と協力する共助が行えません。行政の対応力を上回る大規模な災害が発生した場合は行政機能が麻痺するため、安全を確保するためには公助だけに頼るのではなく、自助・共助に取り組みすることも必要になるでしょう。今号では防災特集として各地域の防災の取り組み等を紹介していますので皆さんの参考になれば幸いです。